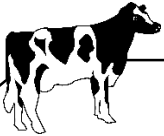


多古中図書館だより

令和3年1月号
多古町学校司書

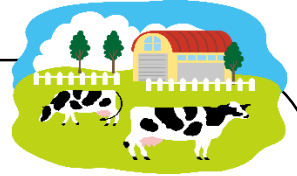


一年で最も寒い時期を迎え、道端に霜柱を見つけました。そんな中でも、水仙がきれいな花を咲かせています。皆さんも寒さに負けず、何かに挑戦してみましょう。



今年は丑年

— 牛の出てる本を紹介 —



🐮『山へいく牛』 川村たかし：著

人間と牛の様々な関係を物語にした短編集。牧場で生まれた子牛と世話をする少女の成長記や、牛と盗人との面白いかけ合いの話、老牛と青年の絆の話などが収録されています。実際に、農家で育った作者の牛への愛を深く感じる作品です。

🐮『西遊記』 吳承恩：著

石から生まれた猿の孫悟空。豚のお化けの猪八戒。河童の精の沙悟浄。その三人をお供に連れた三蔵法師が、唐から天竺へお経をもらう旅をします。その道中に現れる金角や銀角、牛魔王などの妖魔との戦いが、面白い作品です。

🐮自然の中の人間シリーズ『生きものをつくるハーモニー②家畜』 古川良平：著

牛がなぜ家畜となったのか、どのように人の生活に関わってきたのか、酪農の始まりや、牛の体の秘密まで、牛と人間の昔からの深いつながりを知ることができます。



今月は白（ホワイト）の書名本の紹介です



『シロガラス』 佐藤多佳子：著

白鳥神社に住む藤堂千里は、神社の祭りで子ども神楽の踊り手をしています。終わった後、次の祭りの新しい踊り手を紹介されますが、気は合いそうにありません。個性が強くてばらばらでしたが、お互いを知ることですこすつ仲間になっていきます。そんな時、神社の境内にある星明石で事件が起きてしまいます。

『白いイルカの浜辺』 シル・ルイス：作

海洋学者の母が海外で行方不明となり、父とサラは叔母の家に居候しています。学校でのストレスや家での居場所の無さから、逃げ出したい気持ちで一杯でした。しかし、転校生のフィリクスとの出会いや、白いイルカを助けたことで、日常が大きく変わっていくのです。



『ホワイト・ダークネス』 ジェラルディン・マコックラン：著

シモーヌの恋する人は、90年前に亡くなった南極探検家タイタス・オーツ。そんな南極大好き少女が、おじさんのピクターと念願の南極旅行をすることになります。しかしそこには、南極の自然の脅威が待っていたのです。

この本。読んでみませんか？

（元図書委員 高山心さんおすすめ）

『桜のような僕の恋人』 宇山 佳佑：著

とても「命」について考えさせられる本です。

主人公の恋人が早老症という、人よりも倍の速さで年老いてしまう病気になってしまいます。私は老婆の姿になっても一秒でも長く生きようとする彼女の描写を読んで、涙なしにはいられませんでした。また、登場人物みんなが優しく温かくて、様々な場面で感動しました。命の尊さを改めて実感し、大事な人が死ぬという怖さも想像させられました。

